ている。かつては牛頭天王を祀った山だった。
新野直吉著　古代史上の秋田　1981年

高岳山
真坂東方にある信仰上の山。標高221m。山頂上に副川神社がある。秋田藩主佐竹義格は、正徳年間（1711～16）中世を通じて廃絶されていた領内の二式内社を復活し、保呂羽山の波宇志別神社を加えて国内三社として再編成した。その際、現神宮寺嶽上に副川神社があったことをほぼ認めたが、佐竹氏は新たな趣旨のもとに高岳山に鎮座させている。
それはこの山が古くから霊域として崇敬されてさたからで、『秋田風土記』ではその様子を、「副川神社（秋田三国社の一つ）社領三十石、保呂羽本宮と云り。往年京都吉田家波宇志和気社、塩湯彦、尋問の事有て、時の社寺奉行茂木定右衛門奉命て、秋田山本両郡副川神社を普く尋らる。然とも其社迹知れず。適々此村に至て此霊山を見る。村老に問、老の日、はたら沢と云、昔保呂羽山と云。共故に山一ツにして八沢あり、是八沢木と云フ、山上に小社ありと．其村夫を先登として山へ至り見るに、冥双の霊地、又保呂羽の本宮なる事を察し、聴に達し別副川の神社とし茂木氏宮を建」と記している。
江戸時代は潟西岸にも高岳山溝があり、湖上を舟で往来し山頂に参詣した。舟運の発達は当然街道の発達をうながしたと思われ、馬場目川その他西流する河川につくられた湖東通は、予想以上に交通が発達していたのでないか。
「歴史の道調査報告Ⅳ　北部羽州街道」
秋田県教育委員会

ちない　八郎潟町 家の後 地内

「ナイ」は川が本流に合する支谷を意味する。
1987年三浦鉄郎著 新編・秋田の地名

つくしだけ　筑紫岳（八郎潟町・琴丘町）

ツクシモリも特記すべき森地名である。大館市の粕田筑紫森と釈迦内筑紫森、森吉町根森町盡森下境田があり、地域の境界を示している小字名である。
ツクシと言えば、胞子穂が毛筆の穂先に似ていて日本では土筆、中国では筆頭菜と書く早春の植物や九州地方の呼称筑紫が想起されるが、ここでは目立つ標識、しるしという意味。
有名なのは難波の澪標で、航行する船舶に水路や水深を知らせるために立てた杭である。
山岳名としては筑紫森（572.2m　鹿角市）、筑紫森（392m 河辺町）、土筆森（280m　鹿角市）、土筆森山（160m 神岡町と南外村の境界）、筑紫森（130m 大館市）、筑紫森（114m 秋田市）の六つがある。
森は付かぬが筑紫岳（662.2m 上小阿仁村）、筑紫岳（98m 琴丘町）も付記しておく。
(2000/9/8斎藤廣志著あきた地名ﾌｧｲﾙ260『ﾓﾘ13』秋田魁)

磯前神社

創建年代は不明である。八郎湖岸の天瀬川の神社として繁栄したものと思われる。ご神体は薬師如来といわれる。大医王佛は、人間の苦痛をいやし、内面の苦悩を除くなどとするが、信雄公の遺された血の薬との関係は不明です。なお同境内地は八郎潟干拓によって削り取られた山、筑紫岳頂上にあった神社を移転安置したものである。
神社前の社号標には次のように書かれています。
「本神社は、もと海抜150米筑紫岳頂上にあり、昭和33年（1958）国営八郎潟干拓事業原石山に農林省より指定せられ現在地に移す。」

“菅江真澄も歩いた歴史の道「羽州街道」”から

NTT東日本秋田支社